

◎動機づけ面接講演・参加者の感想(一部抜粋)

- 1 具体的な事例を聞くことで自分の診療(うまくいかなかった事例)の振り返りができました。ADHDや注意障害に対しての行動変容をうながすアプローチも興味深いです。ご紹介いただきました本を読みます。ありがとうございました。
- 2 理学療法士養成校で教員をしています。卒前教育で慢性疼痛に取り組むのはハードルが高いと感じていますが、今日のご講演から、「慢性疼痛」に限らず対象者(患者や介護予防対象者のみならず勉強嫌いの学生を含めて)の行動変容を支援するために大変有用と思いました。ご紹介いただいた書籍等からもっと学んでいこうと思います。ありがとうございました。
- 3 公認心理師の資格も所持しているので今後の業務に具体的に役立つ内容のため感動しました。非常に勉強になりました。精神科であり透析設備も兼ね備えた当院は慢性疼痛の患者さんがかなり多くいらっしゃいます。許可を得ない情報提供ばかりをしている自分のやり方をぜひ変えていきたいので、フォローアップ研修などよろしく願ひ致します。
- 4 大変勉強になりました。すぐにはできることではないと思いますが、少しずつ実践していきたいと思います。紹介してくださった文献や本にも目を通していき、少しでも感触が得られるようにしていきたいと考えております。共感して対象者の言葉を引き出し、自己決定していくことが動機づけになることが理解できました。ありがとうございました。
- 5 ご講演、ありがとうございました。とても参考になりました。系統立てて動機づけ面接を学ぶ機会から、5年以上経過しており、新たな知識を得ることができました。改めてMIは進化・深化していること、トレーニング可能なスキルであることを感じました。当時、未熟ながら業務での面談に取り入れて相手とのコミュニケーションが取れている手応えと自身がラクになった感覚がありました。以来、岩手での講演やワークショップの情報が得られず、書籍で自己学習していましたが最近では遠ざかっていました。久しぶりに学びの場があり、とても刺激を受けモチベーションが上がりました。現在の現場でも活用していけるよう、改めて学び直したいと思ひます。本当にありがとうございました。
- 6 何となくこういう言葉を使うと反応が良い、と感覚的に感じていた部分を、理論をもって説明していただいたので今後活かせると思う。事前の質問にも答えていただき、自分が考えていた方向とは別の可能性を示していただいたので、それを踏まえた対応を考えて実行していきたい。
- 7 大変勉強になりました。さっそく実践してみます。患者さん相手だけでなく医療従事者同士のコミュニケーションにも使えらると思ひながら聞いていたので、質問をさせてもらいました。うまくいくかどうかわかりませんが試してみようと思ひます。ワークショップ形式での練習にもぜひ参加したいです。zoomでもブレイクアウトルームを活用すると2人組でのワークができるのでぜひzoomを使つてのワークショップを企画してください。よろしく願ひします。
- 8 看護師です。笠原先生の御講演で、CBT・動機づけ面接の位置づけを理解することができました。看護師もテクニカルの部分の理解・技術も必要だと思ひますので、引き続き勉強したいと思ひます(参考図書もご提示頂き、本当にありがとうございました)。一方で本来的な我-汝のコミュニケーションも看護師には重要であると思ひております。<人格:personの成長>を目指すコミュニケーションは、autonomy(自律性)を保持できるのではないかとと思ひております。しかしながらこの点はまだ明確ではないため、引き続き考え続けたいと思ひます。お忙しい中、ご講義本当にありがとうございました。
- 9 本日は貴重なご講演ありがとうございました。リハビリ中話が止まらない患者様などつい会話を受け流してしまう場面もあり、背景や願望を共有できず難渋することがあります。今後はチェンジトークを逃さないよう注意しながら、患者様と共に歩めるよう臨んでいきたいと思ひます。
- 10 コミュニケーションするにあたりアドバイスを与えるタイミングを考えてほしいといけななと感じました。
- 11 本日は貴重なお話をありがとうございました。今まで動機づけ面接という言葉は聞いたことがあったものの、具体的な内容や方法を知らなかったで、今回の研修でもとても有効な方法であると感じました。特に無関心期の人に説得をしても響かないというのは、普段の業務でも痛感していることであり、クライアントの言葉の背景にある思いを想像して、正確に共感言葉で伝え返すことが非常に重要であると学びました。本日の内容を自分の中でも落とし込み、もう少し学びを深めていながら実践を積み重ねていきたいと思ひます。地震後の大変な状況の中、素晴らしい講演をありがとうございました。
- 12 脳のしくみや事例を具体的に説明して頂いて、わかりやすかったです。病院の職員教育に携わつていますので、大変参考になりました。
- 13 今回初めて慢性疼痛に関する研修会に参加させていただきました。今回は面接方法についての内容でしたが、非常に興味深い内容でした。慢性疼痛に関わる領域ではないですが、むしろ通常の業務・患者対応に非常に役立つ内容に感じました。今回の聴講ですぐに実践・活用できるわけではないと思ひますが、これから学んでみたいと思ひました。慢性疼痛に関わるスタッフだけではなく、多くの医療従事者が聴講できるようになるといいと思ひましたので、これからもよろしく願ひいたします。
- 14 お二人の先生のご講演とも、動機づけ面接の考え方や具体的な実践法について分かりやすくご教授いただき、大変勉強になりました。対応に困つている患者さんに対して、早速トライしてみようと思ひます。また、ご紹介いただいた書籍を利用して、もっと勉強してみたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。
- 15 患者様との会話の中で、消極的な発言に対して何と返してよいか分からない時が多々ありました。今後は教えて頂いたやり方を実践してみたいと思ひます。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 16 地震で大変な状況の中、非常に勉強になる講演会を開催していただき感謝いたします。痛みセンターや健康増進施設で運動指導をしておりますが、行動変容段階で無関心期・関心期の患者さまの対応は難渋することが多いです。今回の動機づけ面接を積極的に勉強し、臨床で利用できるようトレーニングしたいです。また、このような講習会がございましたら、お誘ひいただければ幸いです。ありがとうございました。
- 17 笠原先生からは、あるあるの会話例を踏まえて、慢性疼痛診療にMIがどう活かされるか、具体的に伺えて、MIを勉強する動機づけが高まりました。個人的には、患者さんが行動変容段階モデルのどこにいるかを見極められていなかったと、振り返る機会になりました。多職種でMIに基づく良い意味の「ジャブを打つ」というお言葉や「ドライブのメタファー」も大変心に響きました。北田先生のご講義からは、MIの根本にある治療スタンスをうかがい知ることができ、「反射的に間違ひを正そうとするのを止める」「砂利道の中にキャンディーを見逃していないか」といった自省をしながら、患者さんとお会いしたいと思ひました。「不具合を持ち続けなないといけななと思つたときは絶望を感じるもの、そんなときに、誰かがわかってくれると思へたら、それだけで多少心が軽くなる、不具合を持ち続けながらも、人生が良いように変わり続けることがあるならそれを一緒に見ていく」、慢性痛診療において、大事にしたいスタンスだと心に残りました。大変勉強になる研修に参加させて頂き、ありがとうございました。
- 18 患者さんとの対話の「よくない例」の部分で、あてはまる部分が多々ありました。今回の講演会を聴取させていただき、より動機づけ面接に関して深く知りたいという気持ちになりました。参加させていただき、ありがとうございました。
- 19 現在、勤め先のクリニックにて慢性疼痛の集学的アプローチの取り組みを検討しております。管理栄養士として、慢性疼痛の患者様との関わり方を学びたく参加しました。本日のお話は、管理栄養士が行う栄養指導にも活用出来ることで、大変勉強になりました。患者様との信頼関係を大切に、患者様の生活や思いに寄り添つた指導が出来るように今日学んだことをしっかり実践していきたいと思ひます。ありがとうございました。